

横浜市中期計画 2026-2029

素案

2025年12月3日
市長定例記者会見

新たな4年間に向けて

「横浜市中期計画2022-2025」の取組

基本戦略「子育てしたいまち」の推進により、様々な好循環の兆しを創出

人口

子育て世代の転入超過が
過去20年で最大のプラス



20代～40代の社会増16,526人(24年, 前年比)

経済

横浜への企業誘致に伴う
投下資本額が増加



投下資本額2,662億円(22～24年度合計)

観光

観光消費額,
観光入込客数が過去最高



観光消費額4,564億円, 観光入込客数3,773万人
(24年)

財政

データ経営や歳出改革
による財源創出



財源創出額645億円(22～25年度合計)

新たな4年間にに向けて

- 横浜市中期計画 2026－2029

More “Flexible/Global/Data-Driven” の視点で
「戦略的に進化」・「体系的に深化」

- 横浜市中期計画 2022－2025



「横浜市中期計画2026-2029」における 都市像・戦略

目指す都市像

横浜に関わる全ての皆様と
共有してきた都市像

「明日をひらく都市」

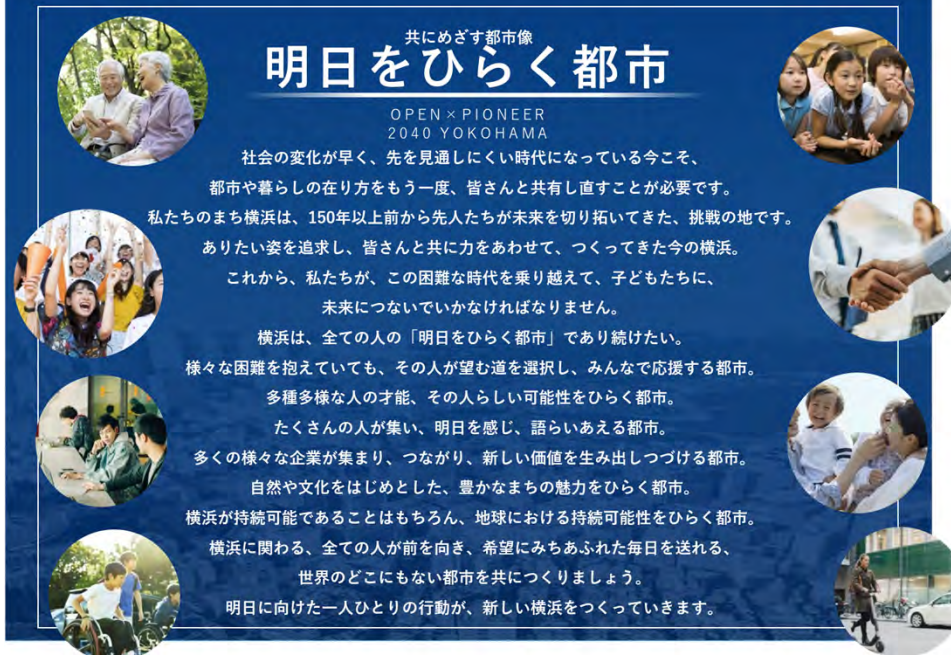
を引き続き2040年頃の
横浜のありたい姿に

共にめざす都市像
明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
2040 YOKOHAMA

社会の変化が早く、先を見通しにくい時代になっている今こそ、
都市や暮らしの在り方をもう一度、皆さんと共有し直す必要があります。

私たちのまち横浜は、150年以上前から先人たちが未来を切り拓いてきた、挑戦の地です。
ありたい姿を追求し、皆さんと共に力をあわせて、つくってきた今の横浜。
これから、私たちが、この困難な時代を乗り越えて、子どもたちに、
未来につないでいかなければなりません。

横浜は、全ての人の「明日をひらく都市」であり続けたい。
様々な困難を抱えていても、その人が望む道を選択し、みんなで応援する都市。
多種多様な人の才能、その人らしい可能性をひらく都市。
たくさんの人が集い、明日を感じ、語らいあえる都市。
多くの様々な企業が集まり、つながり、新しい価値を生み出しつづける都市。
自然や文化をはじめとした、豊かなまちの魅力をひらく都市。
横浜が持続可能であることはもちろん、地球における持続可能性をひらく都市。
横浜に関わる、全ての人が前を向き、希望にみちあふれた毎日を送れる、
世界のどこにもない都市を共に作りましょう。
明日に向けた一人ひとりの行動が、新しい横浜をつくっていきます。



新たな戦略へ

戦略

市民生活の安心・安全 × 横浜の持続的な成長・発展



- ▶ あらゆる世代・多様な市民の皆様が
安心・安全を基本に、自分らしく
いきいきと暮らすことのできる
「住みたい・住み続けたいまち」に
- ▶ 都市の持続的な発展・成長を実現し、
未来に希望を抱くことができる
「選ばれるまち」に

「横浜市中期計画2026-2029」の特徴

「明日をひらく都市」

市政全体

全ての政策や施策を
連動させ，推進

4年間で重点的に進める戦略や取組

市政の基礎となり，
日々の生活や活動を支える
個別分野別計画，業務サービスなど

「横浜市中期計画2026-2029」の体系

共にめざす都市像
OPEN × PEOPLE × COHAMA
明日をひらく都市

戦略

市民生活の安心・安全 × 横浜の持続的な成長・発展

総合的な取組

政策の分野（14の政策群）

毎日の安心・安全	防災・減災	医療・保健	こども・子育て
教育	高齢・長寿	障害児・者	暮らし・コミュニティ
交通	にぎわい スポーツ・文化	産業	まちづくり
環境との共生	みどり		

※政策群は関連する施策群（全33施策群）で構成

横断的な取組

明日をひらく都市 プロジェクト

～テーマに関連する施策群による
横断的なプロジェクト～

循環型都市への移行

観光・経済活性化

未来を創るまちづくり

市民の実感を，評価の軸に

～「横浜市中期計画2026-2029」の計画体系～

市民の実感を評価の軸に

- 「成果」を測る指標が、**活動量**（いわゆるアウトプット。やったこと・作ったもの）になりがち
「〇〇への補助件数：200件」「〇〇事業の完了数：5地区」など
- **活動量**の積み上げた計画は「手段の目的化」につながる

Point 1

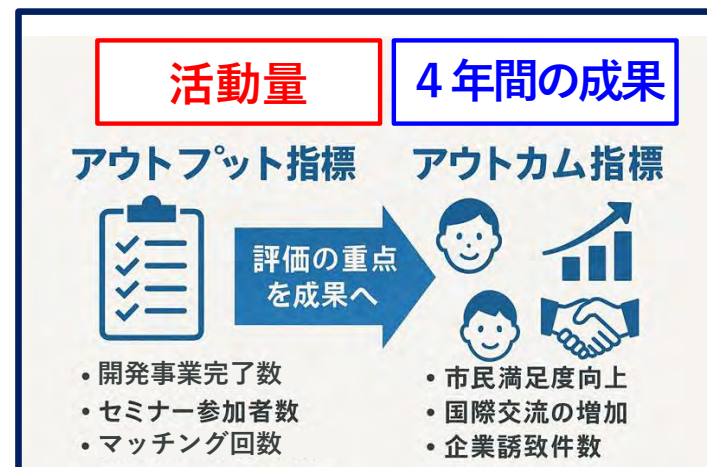
最上位の目標は、すべて
市民の実感をベースに設定

Point 2

活動量(アウトプット)

4年間の成果(アウトカム)

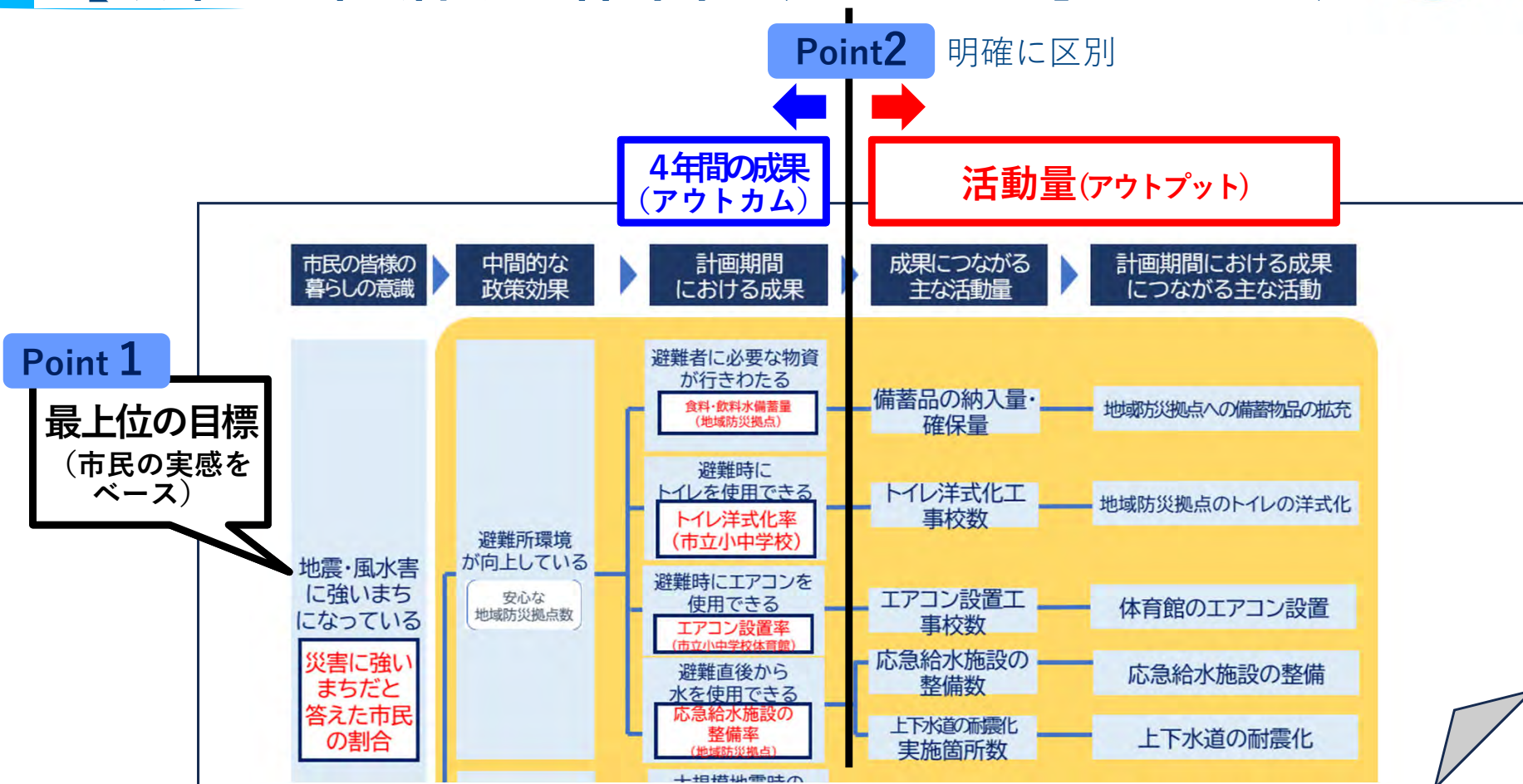
と
の明確な区別



市民の実感を評価の軸に

【政策-施策-活動の体系化（「防災・減災」ページ抜粋）

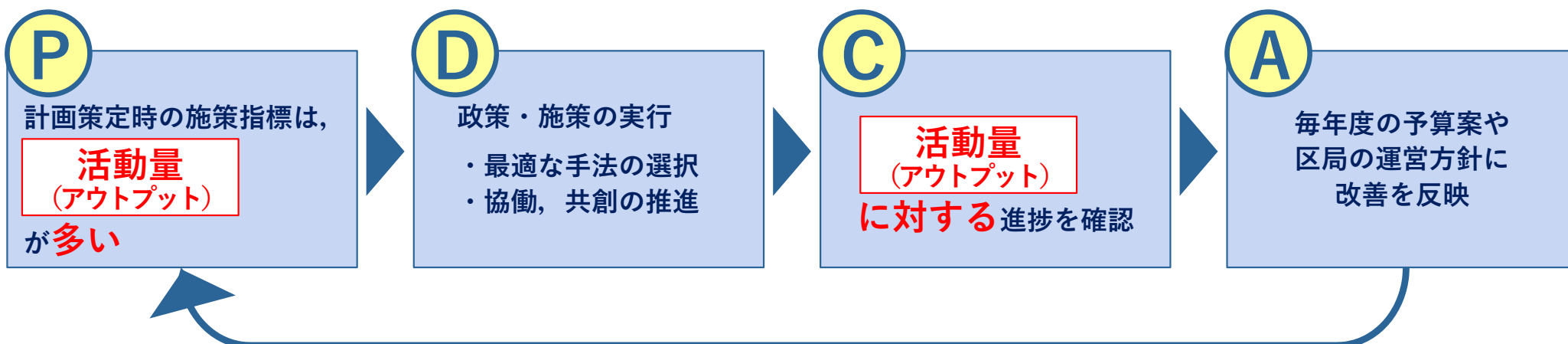
進化と深化



市民の実感を評価の軸に

進化
と
深化

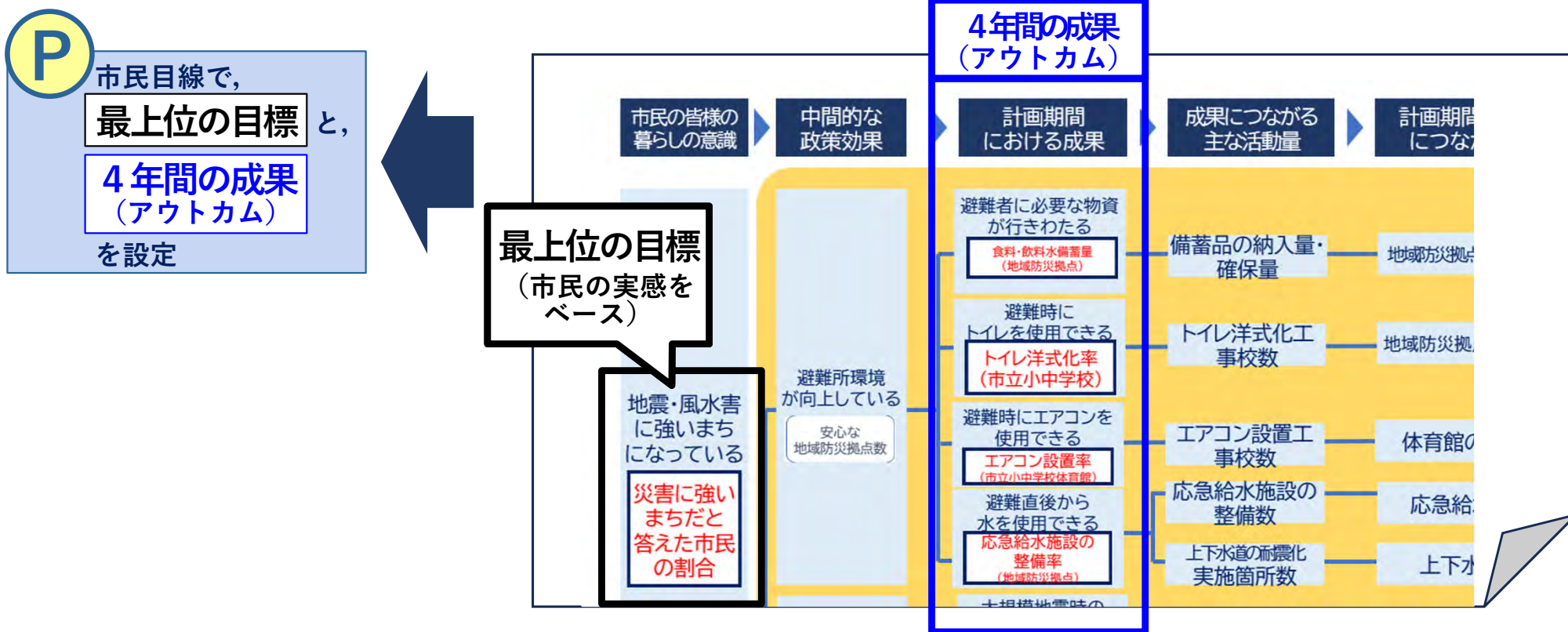
経営サイクル（これまで）



市民の実感を評価の軸に

進化と深化

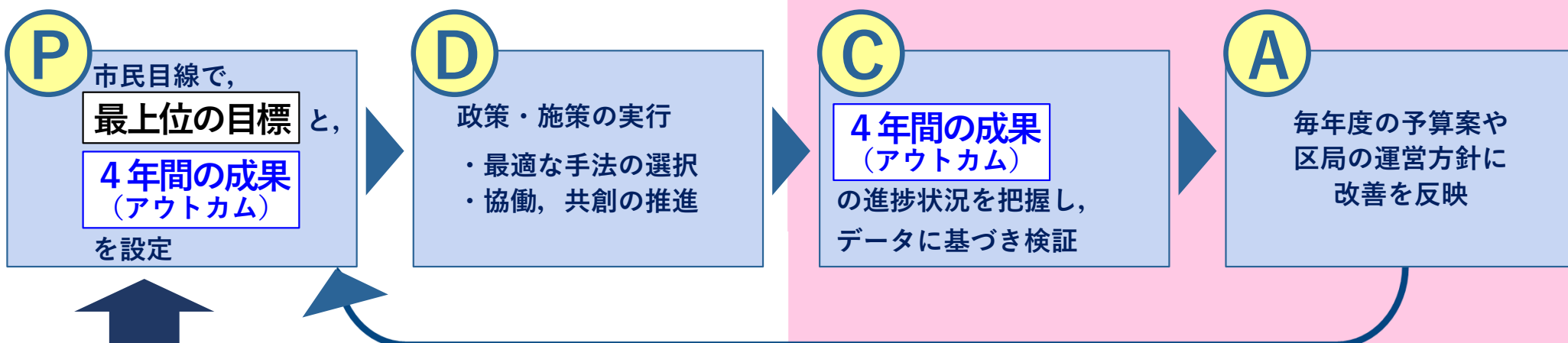
まずPlanningをアップデート



市民の実感を評価の軸に

進化と深化

市民目線の経営サイクル ～市民目線によるアップデート～



DDP2.0による施策の質の向上，検証・改善



データ収集



分析・可視化

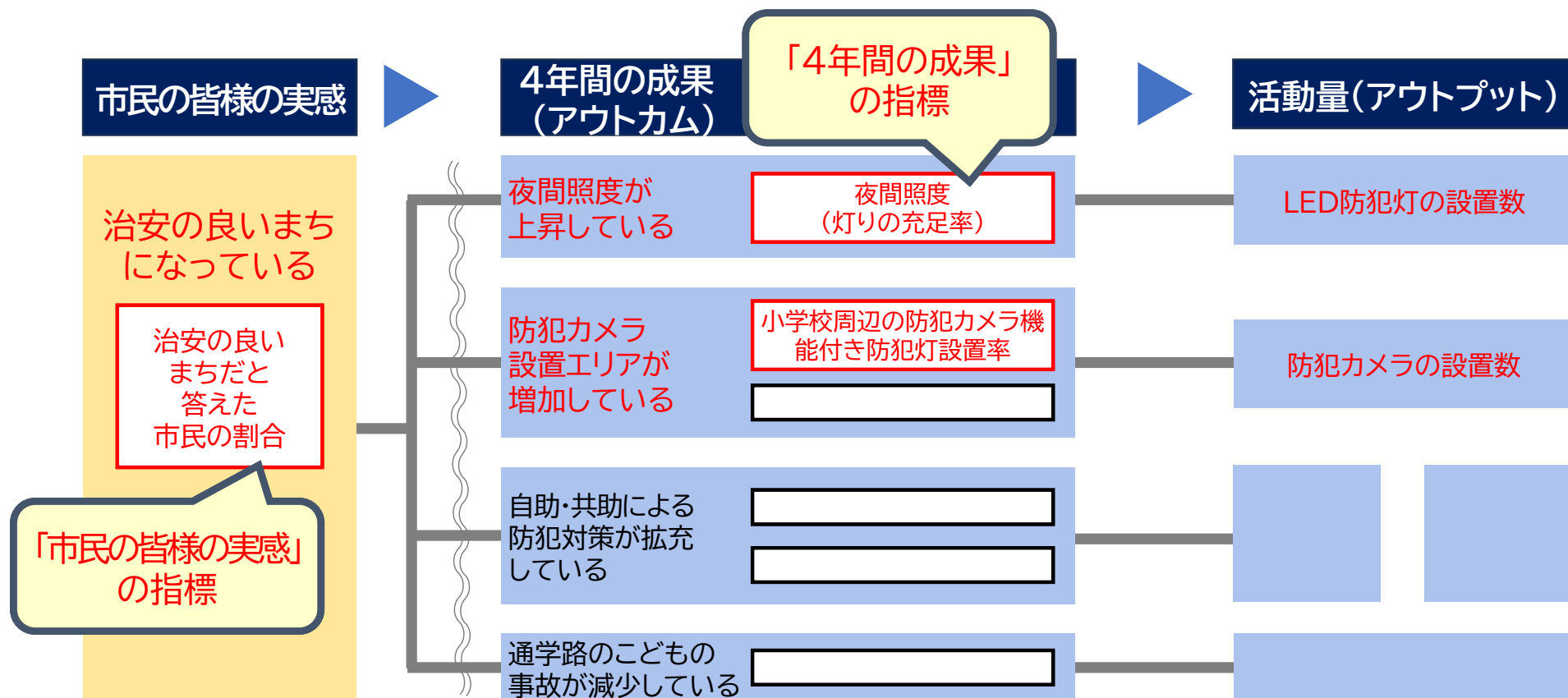


検討

「横浜市中期計画2026-2029」 ～総合的な取組の主な政策・施策～

① 毎日の安心・安全

▶防犯，歩行者の安心・安全 ▶インフラ施設の安全確保

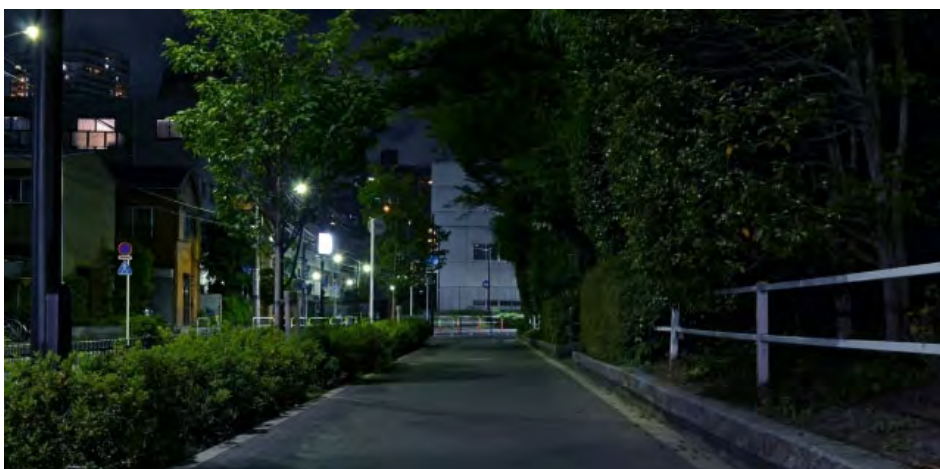


※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

① 毎日の安心・安全

市民の皆様の実感

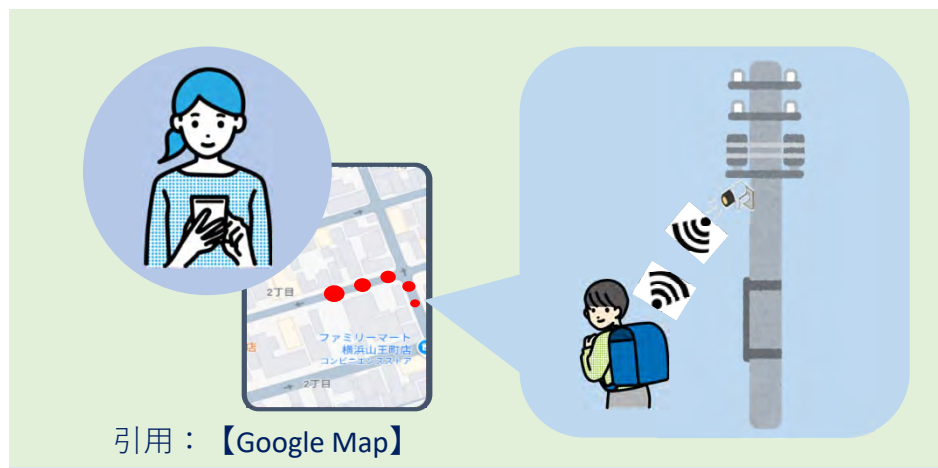
治安の良いまちになっている



先端技術も活用した
LED防犯灯設置の更なる推進

▶ 夜間照度
(灯りの充足率)

4年間の成果目標
【現状】 70% → 100%



引用：【Google Map】

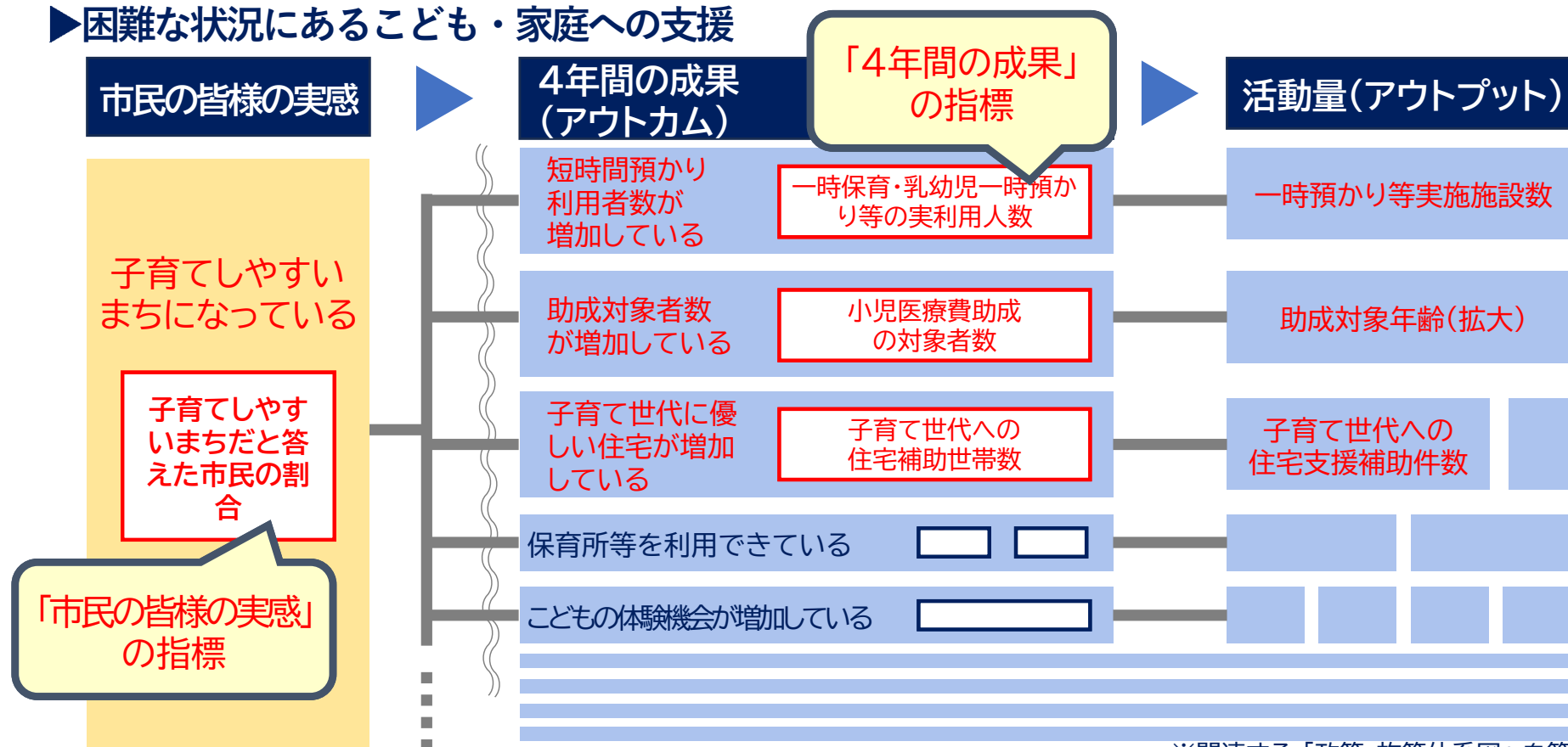
小学校周辺の
防犯カメラ機能付き防犯灯の設置の推進

▶ 小学校周辺の防犯カメラ
機能付き防犯灯設置率

4年間の成果目標
【現状】 0% → 100%

② こども・子育て

▶子育て支援 ▶保育・幼児教育 ▶こどもの体験機会づくりと居場所の充実
▶困難な状況にあるこども・家庭への支援



② こども・子育て

市民の皆様の実感

子育てしやすいまちになっている



小児医療費助成の 18歳までの拡充

▶小児医療費助成の対象者数

4年間の成果目標

【現状】424,368人 **490,110人**

※現状:R6時点



一時預かり施策の充実

▶一時保育・乳幼児一時預かり
等の実利用人数

4年間の成果目標

【現状】16,665人 **20,000人**

※現状:R6時点



子育て世代への住宅支援制度

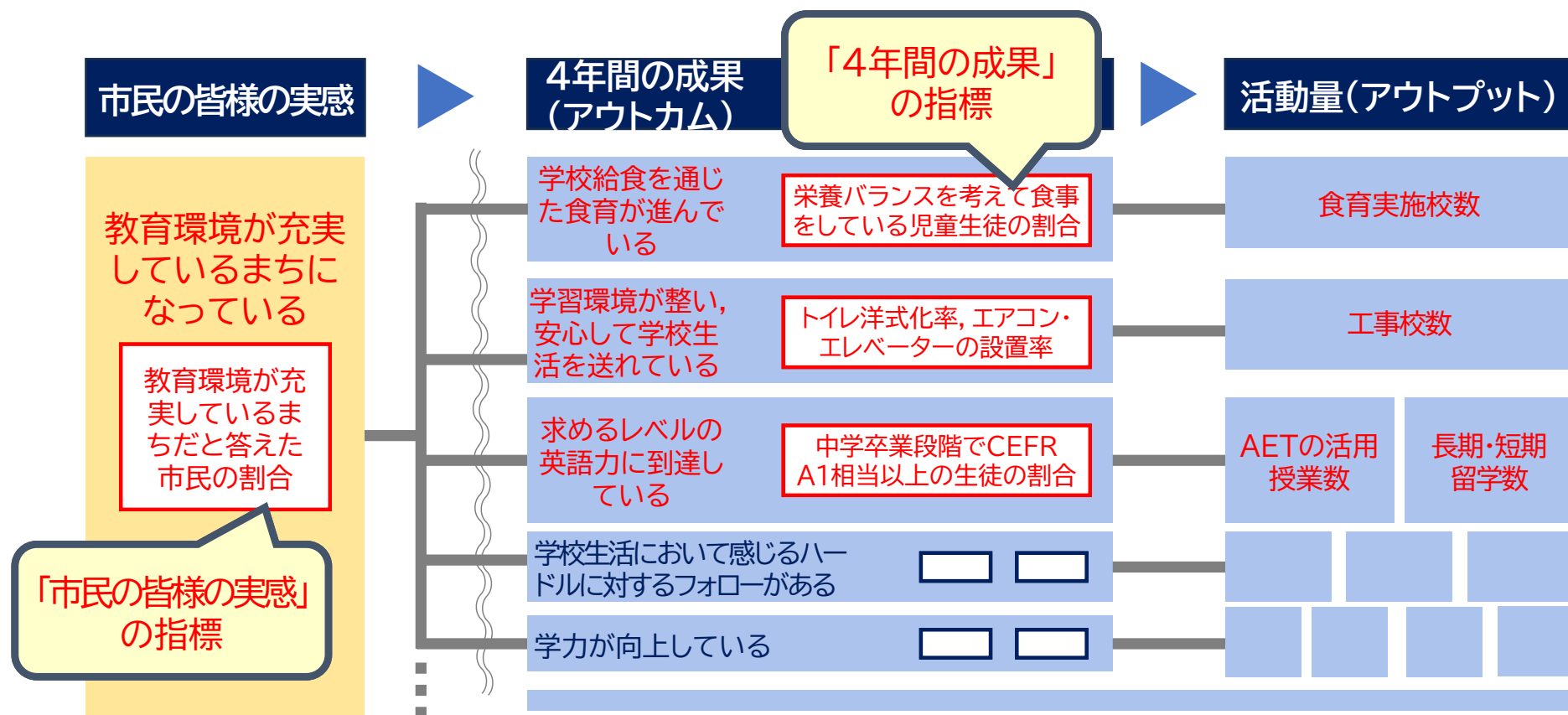
▶子育て世代への住宅補助世帯数

4年間の成果目標

【現状】0世帯 **240世帯**

③ 教育

▶教育環境の整備 ▶安心して生活できる学びの環境づくり ▶学力の向上 ▶教職員



※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

③ 教育

市民の皆様の実感

教育環境が充実しているまちになっている



中学校全員給食の開始

- ▶ 栄養バランスを考えて食事
をしている児童生徒の割合

4年間の成果目標

【現状】 76.2% 80%

※現状：R6時点



市立小中学校のエアコン設置工事・ エレベーター・トイレ洋式化工事

- ▶ ①トイレ洋式化率, ②体育館エアコン
設置率, ③エレベーター設置率

4年間の成果目標

①【現状】 88% 100%

②【現状】 25% 100%

③【現状】 63% 90%

※現状：R6時点



英語に触れる機会の拡充, 市立高校における長期留学 プログラムの新設

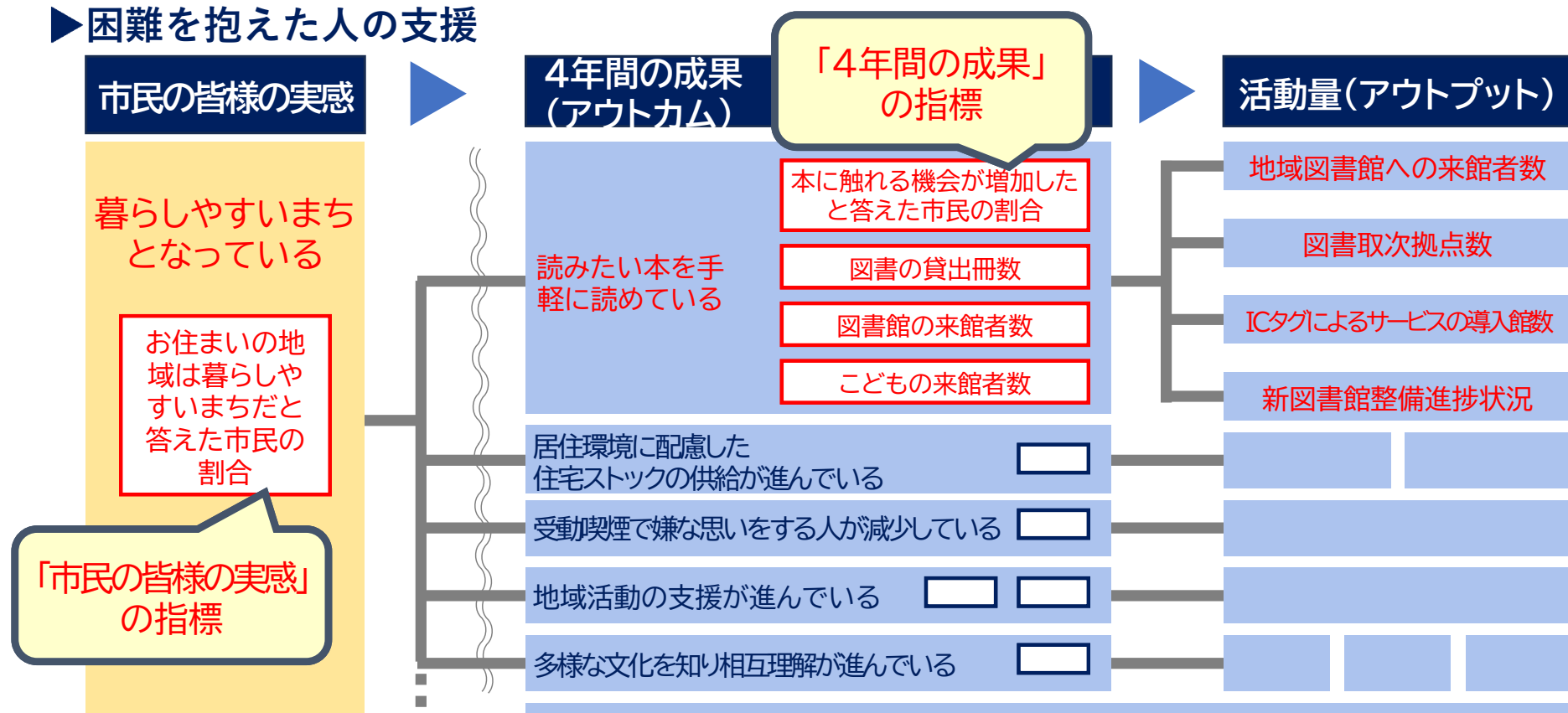
- ▶ 中学卒業段階でCEFR A1
相当以上の生徒の割合

4年間の成果目標

【現状】 65.4% 85%

④ 暮らし・コミュニティ

- ▶ 地域の生活環境
- ▶ 学び・交流を支える地域の情報拠点
- ▶ 多文化共生
- ▶ 困難を抱えた人の支援



※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

④ 暮らし・コミュニティ

市民の皆様の実感

暮らしやすいまちになっている



- ・地域館の改修
- ・図書取次拠点の拡充
- ・既存図書館の利便性向上(ICタグ等)
- ・新図書館整備の推進

- ▶ ①本に触れる機会が増加したと答えた市民の割合
- ②図書の貸出冊数
- ③図書館の来館者数
- ④こどもの来館者数

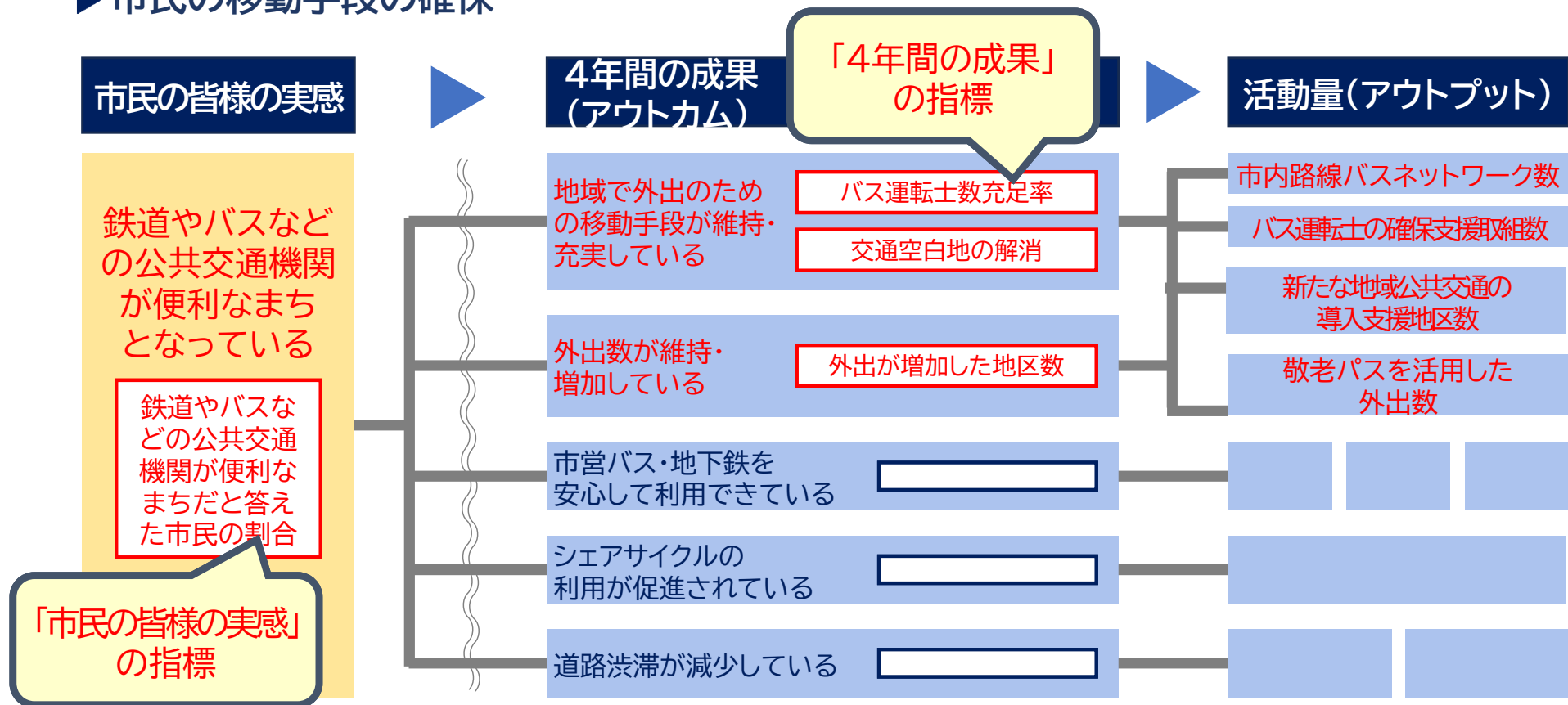
4年間の成果目標

①【現状】	今後調査
②【現状】 1,220万冊	1,320万冊
③【現状】 630万人	730万人
④【現状】	今後調査

※現状:R6時点

⑤ 交通

▶市民の移動手段の確保



※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

⑤ 交通

市民の皆様の実感

鉄道やバスなどの公共交通機関が便利なまちとなっている



新たな地域公共交通の導入支援,
敬老パスを通じた高齢者の外出支援

▶ ①交通空白地の解消

②外出が増加した地区数

4年間の成果目標

①【現状】 11%	半減
②【現状】 -	53地区



連節バス（東急バス㈱提供）

バス路線の維持, バス運転士確保に
向けた取組の推進

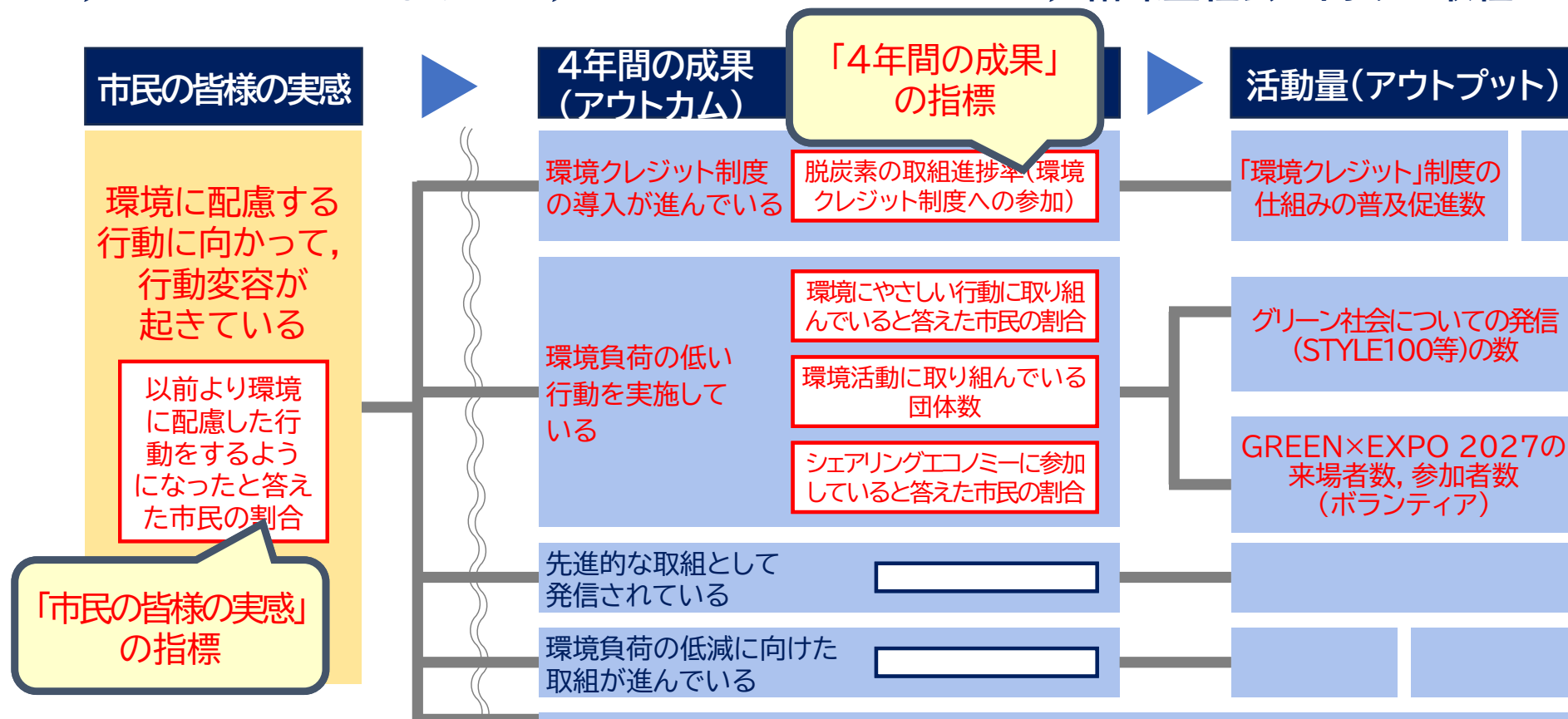
▶ バス運転士数充足率

4年間の成果目標

【現状】 94.3%	100%
※現状: R6時点	

⑥ 環境との共生

▶カーボンニュートラル ▶ GREEN × EXPO 2027 ▶循環型社会に向けた取組



※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

⑥ 環境との共生

市民の皆様の実感

環境に配慮する行動に向かって、行動変容が起きている



「環境クレジット」制度の仕組みの活用促進

▶ 脱炭素の取組進捗率
(環境クレジット制度への参加)

4年間の成果目標
【現状】 今後調査



次の万博は
横浜！

グリーン社会や循環都市をテーマとする
市民の発信の場の創出, GREEN×EXPO2027
の参加促進及び開催後のレガシーを見据えた取組

▶ ①環境にやさしい行動に

取り組む市民の割合

②環境活動に取り組む団体数

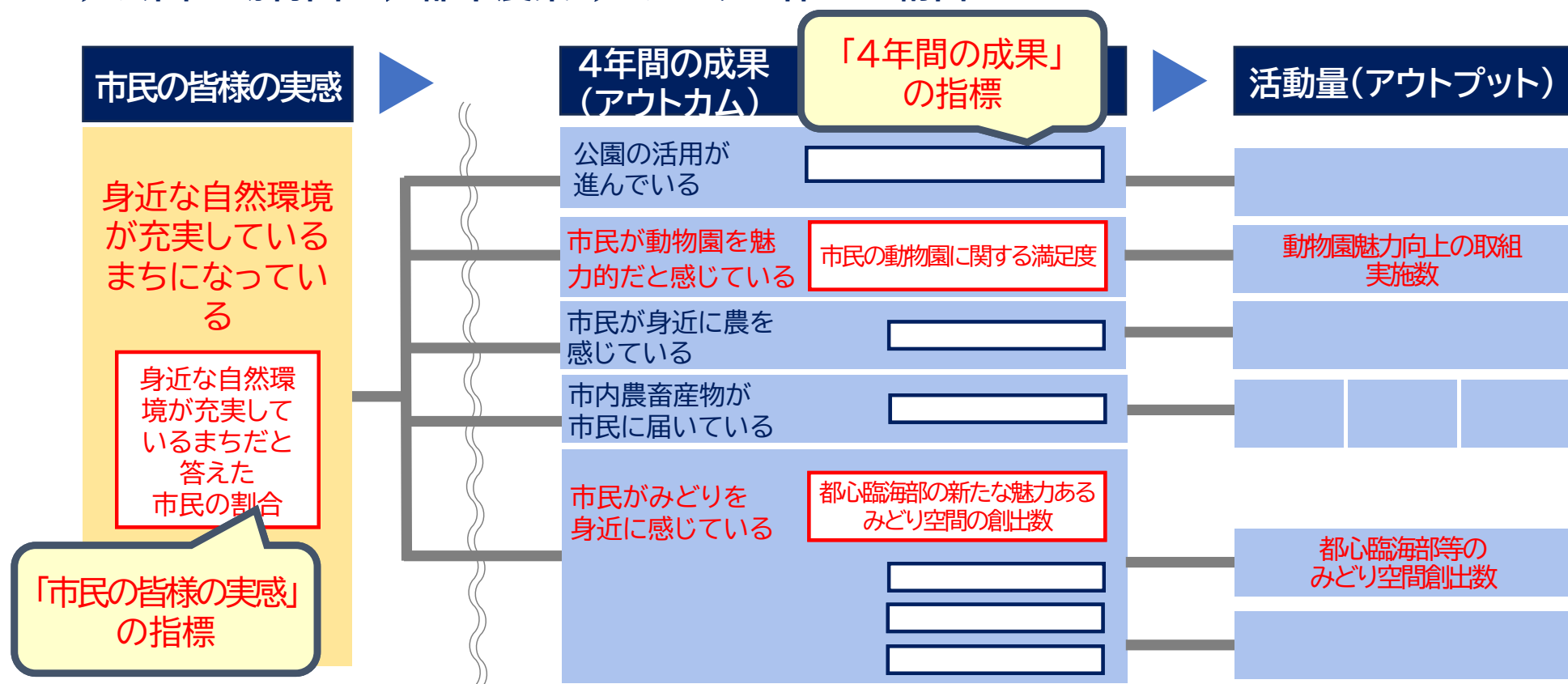
③シェアリングエコノミーへの参加率

4年間の成果目標

	①【現状】	今後調査
②【現状】	4,068団体	4,100団体
③【現状】	今後調査	

⑦ みどり

▶公園・動物園 ▶都市農業 ▶みどりの保全と創出



※関連する「政策・施策体系図」を簡略化

⑦ みどり

市民の皆様の実感

身近な自然環境が充実しているまちになっている



よこはま動物園

ズーラシア

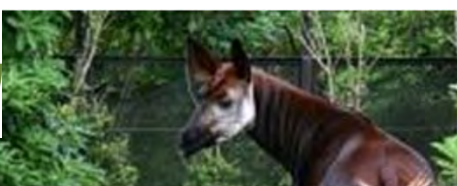


野毛山動物園



金沢自然公園

金沢動物園



横浜の3動物園の魅力向上

▶市民の動物園に関する満足度

4年間の成果目標

【現状】

今後調査



都心臨海部における象徴的な
みどり空間の創出(大通り公園等)

▶都心臨海部の新たな
魅力あるみどり空間の
創出数

4年間の成果目標

【現状】 0箇所

3箇所

「横浜市中期計画2026-2029」 ～明日をひらく都市プロジェクト～

「横浜市中期計画2026-2029」の体系

共にめざす都市像
OPEN × PEOPLE × COHESION × KOKORO × KOHAMA
明日をひらく都市

戦略

市民生活の安心・安全 × 横浜の持続的な成長・発展

総合的な取組

政策の分野（14の政策群）

毎日の安心・安全	防災・減災	医療・保健	こども・子育て
教育	高齢・長寿	障害児・者	暮らし・コミュニティ
交通	にぎわい スポーツ・文化	産業	まちづくり
環境との共生	みどり		

※政策群は関連する施策群（全33施策群）で構成

横断的な取組

明日をひらく都市 プロジェクト

～テーマに関連する施策群による
横断的なプロジェクト～

循環型都市への移行

観光・経済活性化

未来を創るまちづくり

明日をひらく都市プロジェクト

テーマ01 循環型都市への移行

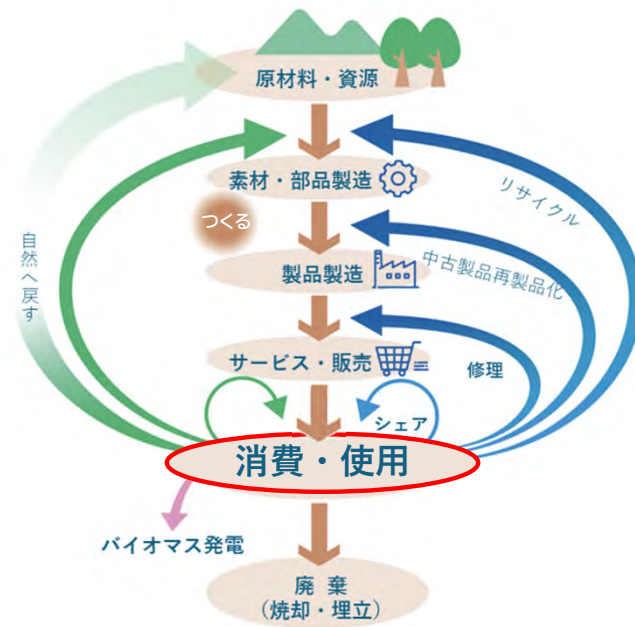
都市の特性を生かした「横浜らしいサーキュラーエコノミー」の取組を推進し、持続可能な循環型都市を目指します。

また、この取組を、
GREEN×EXPO 2027等を通じて
世界に発信します。

リニアエコノミー



サーキュラーエコノミー



明日をひらく都市プロジェクト

横浜の特性「大規模」「多様性」「市民意識」を活かし、
生産・消費・再資源化のあらゆるステージで循環型都市を目指す

「たべる」サーキュラー

横浜の「農」を
生かした食の循環

食品廃棄物の堆肥化・リサイクル



「つなぐ」サーキュラー

動静脈連携により、再生
資源の更なる活用を目指す

製品製造など「動脈産業」× 再資源化など「静脈産業」



「つくる」サーキュラー

社会情勢変化を経済成長の
きっかけにつなげる

サーキュラー産業の誘致・集積・エンパワー

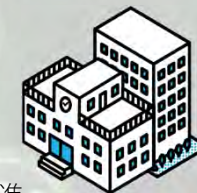


YOKOHAMA
CIRCULAR
LINK

「くらす」サーキュラー

資源の宝庫である「建物」
のサーキュラー化

再利用しやすい設計や、リノベーションの推進



「とりくむ」サーキュラー

身近な取組から
未来を変えていく

廃食油・服など、生活に身近なチャレンジ



「みえる」サーキュラー

物質循環の流れを
「見える化」

各地域での資源循環率の向上へ



これらの取組を広く世界へ発信し、アジアを代表する循環型都市へ

明日をひらく都市プロジェクト

テーマ01 循環型都市への移行

2029 (令和11)年の横浜の姿

「**経済成長**」と「**ごみ排出量削減**」の両立
(デカップリング)が進んでいる。

・資源化等による食品廃棄物削減量	【現状】ー	870t
・企業マッチング等による 投入資源削減量	【現状】ー	8,000t
・公共建築物のサーキュラー設計数	【現状】ー	90件
・循環型サプライチェーンの創出数	【現状】ー	ー
・サーキュラーエコノミーに 関する事業への参加人数	【現状】	今後調査

2040 (令和22)年の横浜の姿

経済 サーキュラーエコノミーが横浜の
新たな**成長産業**となっている。

グローバル **可視化されたサーキュラリティ指標**
のもと、地球環境と調和した持続可
能な都市として、**国内外のモデル**と
なっている。

市民 「**次世代**も横浜に住んで欲しい」
と感じる市民が増加している。

明日をひらく都市プロジェクト

テーマ02 観光・経済活性化

観光都市・横浜を代表する資源を生かすと共に、未来に向けた産業創出に取り組み、経済の持続的な成長・発展につなげます。

また、海外活力の取り込みや、横浜ブランドの海外への発信など、グローバル都市に向けた取組を進めます。



明日をひらく都市プロジェクト

観光発展

- ・更なるにぎわい形成の舞台となる水際線や三溪園など、観光資源の磨き上げ
- ・都心部と郊外部のにぎわい拠点の相乗効果



**にぎわいの形成と、
横浜市の観光・経済の強化**
(観光消費額7,000億円を目指す)

ブラン
ディング

活力
取り込み

経済成長

- ・成長産業の創出・育成
(サーキュラーエコノミーや、AI・半導体等)
- ・次世代の産業拠点を形成するまちづくり

変化を力に、成長を続ける
(市内総生産額の向上を目指す)

- ・グローバル都市ブランディング
- ・国際的影響力のある機関・企業等、海外活力の取り込み



- ・異文化コミュニケーション力の育成等、グローバル人材の育成

**世界での認知度が高まり
選ばれる都市になる**
(都市の持続可能性が高まる)

世界をより身近に感じ、世界とつながる
(市民の選択肢や可能性が広がる)

グローバル都市の推進

[観光発展] + [経済成長] + [グローバル都市の推進]
3つの取組を連動して進め、市民が世界に誇れる都市へ

明日をひらく都市プロジェクト

テーマ02 観光・経済活性化

2029_(令和11)年の横浜の姿

水際線や三溪園をはじめとした横浜の魅力ある**都市資産を生かした更なる観光の発展**や、世界潮流や国の成長戦略も踏まえたサーキュラーエコノミーやAI・半導体分野などの**産業の育成**が進んでいる。

また、そうした都市の魅力が**国際的にも認知**されると共に、若者をはじめとした横浜市民が、**世界をより身近に感じ、世界とつながり**、「市民が世界に誇れる都市」となっている。

- ・観光消費額
- ・観光入込客数
- ・延べ宿泊者数
- ・市内新規産業投資件数
(サーキュラーエコノミー・AI関連)

【現状】 4,564億円※	5,500億円
【現状】 3,773万人※	4,000万人
【現状】 980万人泊※	1,100万人泊
【現状】 4 件	24件

※現状:R6時点

2040_(令和22)年の横浜の姿

観光 都心部でも郊外部でも、**多くの市民や国内外の来街者を惹きつける拠点**を形成し、更なるにぎわいが生まれている。
(観光消費額7,000億円)

経済 サーキュラーエコノミーやAI・半導体関連産業が**横浜の新たな成長産業**の一つとなり、人口減少時代においても市域全体が経済成長を続けている。
(市内総生産額の向上)

グローバル **世界目線の政策を実行するグローバル都市**としての世界的認知を獲得している。

テーマ03 未来を創るまちづくり

人口減少社会においても持続的に成長・発展する都市を目指して、未来を創るまちづくりを進めます。

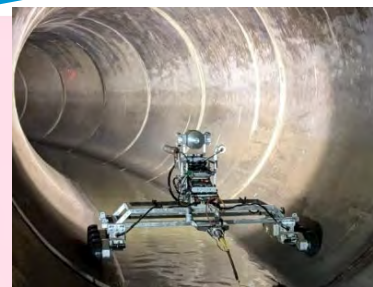
郊外部にも活性化の拠点を創り、これまで以上に郊外部のまちづくりに力を入れていきます。



明日をひらく都市プロジェクト

安心して暮らせるまちづくり

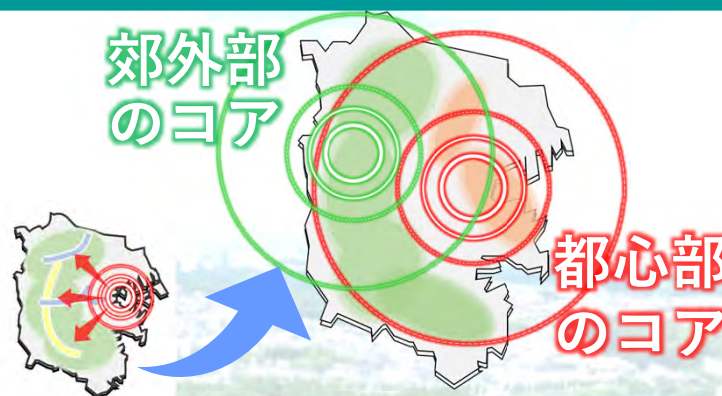
- ・ まちの基礎であるインフラ施設を，着実に維持管理
- ・ 将来の大規模災害にも備え，市民の安心・安全な暮らしを守る



「ダブルコア」のまちづくり

- ・ 横浜市での今世紀最大規模の都市開発である上瀬谷地区のまちづくり（248ha）を，郊外部全体の活性化に連鎖
- ・ 2つのコア（拠点）の形成により，都市の多様性，強靱性を向上

みなとみらい地区の
約1.3倍



規制見直しを通じた機能誘導

- ・ 土地利用規制を，時代の変化や社会ニーズに合わせて全市的にアップデート
- ・ 地域ごとの特性に応じた，人や企業を惹きつけ活力ある魅力的な市街地を形成

例：都心部商業エリア



例：郊外部駅周辺エリア



明日をひらく都市プロジェクト

テーマ03 未来を創るまちづくり

2029_(令和11)年の横浜の姿

インフラの適正な維持管理や、**地域毎の特色を生かした魅力的なまちづくり**に加え、水際線の整備や土地利用規制の見直し、GREEN×EXPO 2027 開催後のまちづくり等、**都市の持続的な成長・発展につながる取組**が進んでいる。

- ・ 中大口径下水道管の特別重点調査結果に基づく老朽化対策の完了率

【現状】 0% → 100%

- ・ 水際線の来街者数

【現状】 975万人 → 1,100万人

※現状:R6時点

- ・ 郊外部主要駅における来街者数の対前年変動率

【現状】 -0.3%※ → 増加(0%超)

※の数値は、データ提供元:(株)Agoop

2040_(令和22)年の横浜の姿

インフラ 平時も発災時にも、**安心・安全な都市基盤**が維持されている。

拠点 2つの拠点が形成されることで、**都市の多様性・強靱性が高まり**、横浜の**価値と魅力**が高まっている。

土地利用 規制見直しによる、地域に応じた**人口や就業者・にぎわいの増加**や**税収増等**により、**都市の成長・発展**へとつながっている。

計画の実現に向けて：財源確保

～「財政ビジョン」（2022年策定）をもとに、不断の行財政改革を実践～

「創造と転換」を理念とする歳出改革の推進等

- 施策・事業の徹底した見直し
- 行政内部経費の更なる見直し
- 外郭団体への財政支援等の適正化
- 積極的な歳入確保策の実施
- 計画的な投資管理
- 国庫補助事業の積極活用
- 保有資産の有効活用等による財源確保 など

多様な公民連携手法・民間資金活用の検討・導入

データ駆動型経営 へのSHIFT

市民が
実感できる成果

施策や事業の推進

行政の持つ経営資源

これまでの市政運営

施策や事業の推進

行政の持つ経営資源

これからの市政運営